

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	木更津市立畑沢小学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○過去2年の結果から、国語科の平均点は全国や県平均に届いていない。特に3問ある「記述式」は、大幅に正答率が低くなり、無解答率も全国や県平均よりも高い。条件作文では、「1つも条件が当てはまらない」や「無解答」が、4割いたため、記述式に対して抵抗意識が高く、意欲も低い。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○仮説を「国語科の学習を中心に書く活動を継続的に取り入れ、児童の意欲を高められるような学習の工夫をすれば、主体的に表現しようとするだろう」と設定し、全領域を通して自分の考えを表現できるよう図っていく。

3. 具体的な実践

○「全国学力・学習状況調査」を通じた授業改善

全職員で問題を解き、求められている力について学年ごとに話し合った。

○継続した「書く活動」（短作文）の実践

週に1度、朝の10分間の学習で短作文に取り組んだ。学年ごとに、低・高学年別のテーマ一覧表から選択し、短作文に取り組んだ。

○授業研究会（学年1展開・年2回）

学習過程を工夫し、自分の考えを書いて表現できる児童の育成に向けて実践をしていった。

4. 成果

○授業研究会では、単元を貫く言語活動を設定し、必然性を持たせた書く場面を設定して、日々の授業の中で、小刻みな書く活動を意識的に取り入れたことで、子どもたちの書く姿が多く見られるようになった。

○朝の短作文では、集中して取り組む姿があり、全く書けなかった児童も文章を書き慣れてきた。

○少人数指導職員を配置したことで、児童に応じた個別支援ができ、全員が考えを書くことができた。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 上代 博行）

○全国学力・学習状況調査問題を全職員で解き、育成すべき資質・能力を確認した上で「書くこと」に焦点を当てて、日常的に取り組んだことで成果をあげている。児童に意欲と自信を持たせた上で、今後、文章の質を高めていくというステップを踏んで、見通しをもって学校全体で児童の学力向上に向けて取り組んでいる。